



平成 27 年 2 月 24 日  
海 上 保 安 庁

## 西之島の火山活動の状況（2月23日観測）

2月23日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

### 1. 噴火の状況

火砕丘にある火口から、1分間に5～6回の頻度で溶岩片を伴う噴火を繰り返していた。溶岩流は火砕丘から東方向に流出し、新たな陸地が形成されていた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

### 2. 新たに形成された陸地の状況

平成26年12月25日の当庁航空機による観測と比較して、東方向に拡大していた（図7参照）<sup>（注）</sup>。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火砕丘にある火口での噴火に大きな変化はなく、一分間に数回の頻度で溶岩片の噴出が続いている。

マグマは火口の極浅部まで上昇しており、東側への溶岩の延伸が継続している。

以上のことから西之島のマグマ供給は現在も安定して続いていると考えられる。」

とのコメントが得られた。

（注）前回の観測（1月21日）は天候条件が悪く、全体の形状や大きさのデータは取得できなかった。

※2月23日時点での形状（暫定値）

・東西：約 1,950 m（12月25日時点 東西：約 1,700 m）

・南北：約 1,800 m（12月25日時点 南北：約 1,850 m）

・面積：約 2.45 平方 km、東京ドームの約 52 倍

（12月25日時点 約 2.29 平方 km、東京ドームの約 49 倍）

（参考）西之島全体の面積：約 2.46 平方 km

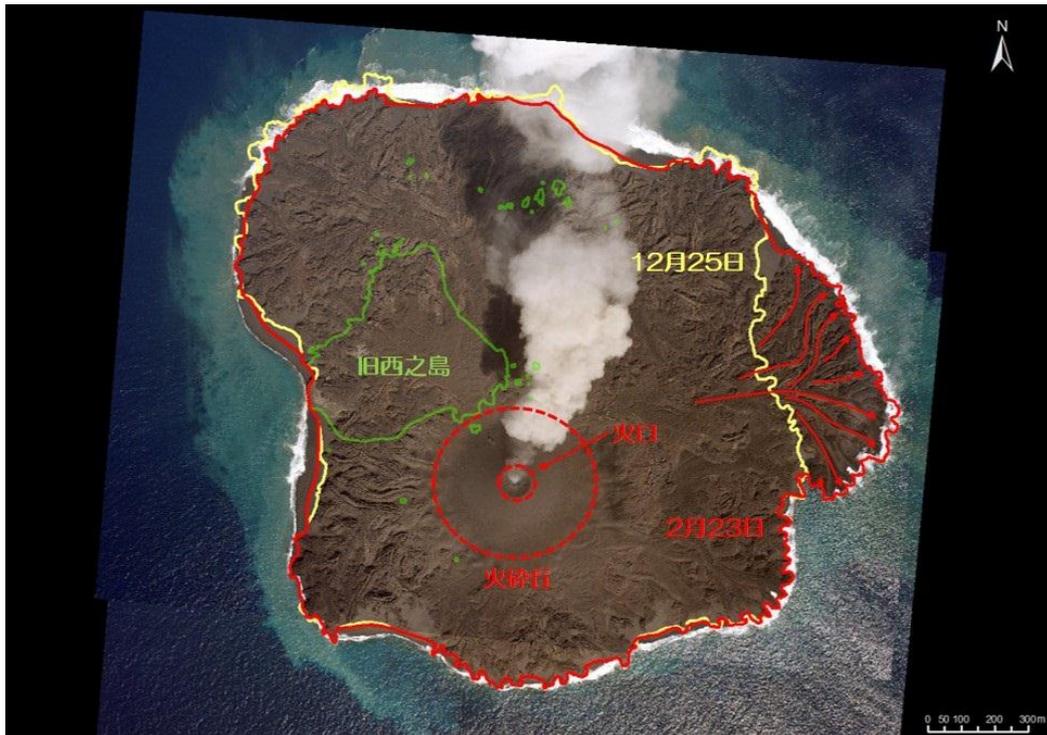


図1 火砕丘及び火口の位置 (2月23日撮影)



図2 南西方向から見た西之島 (2月23日撮影)

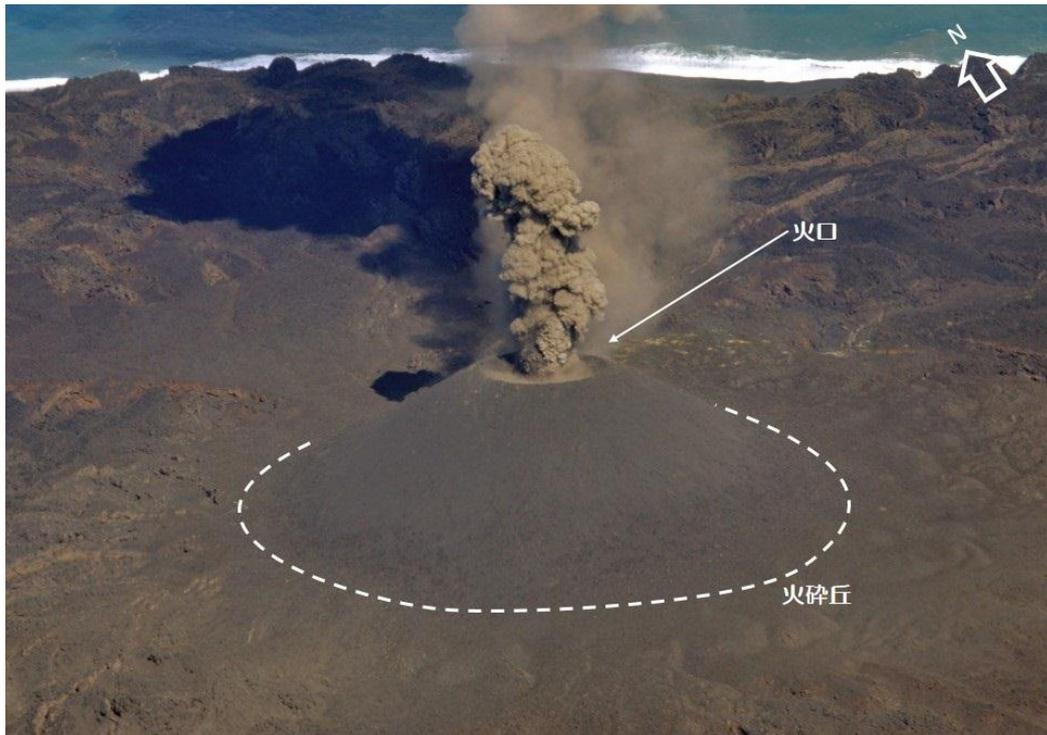


図3 火砕丘の火口から噴煙を噴出（2月23日撮影）

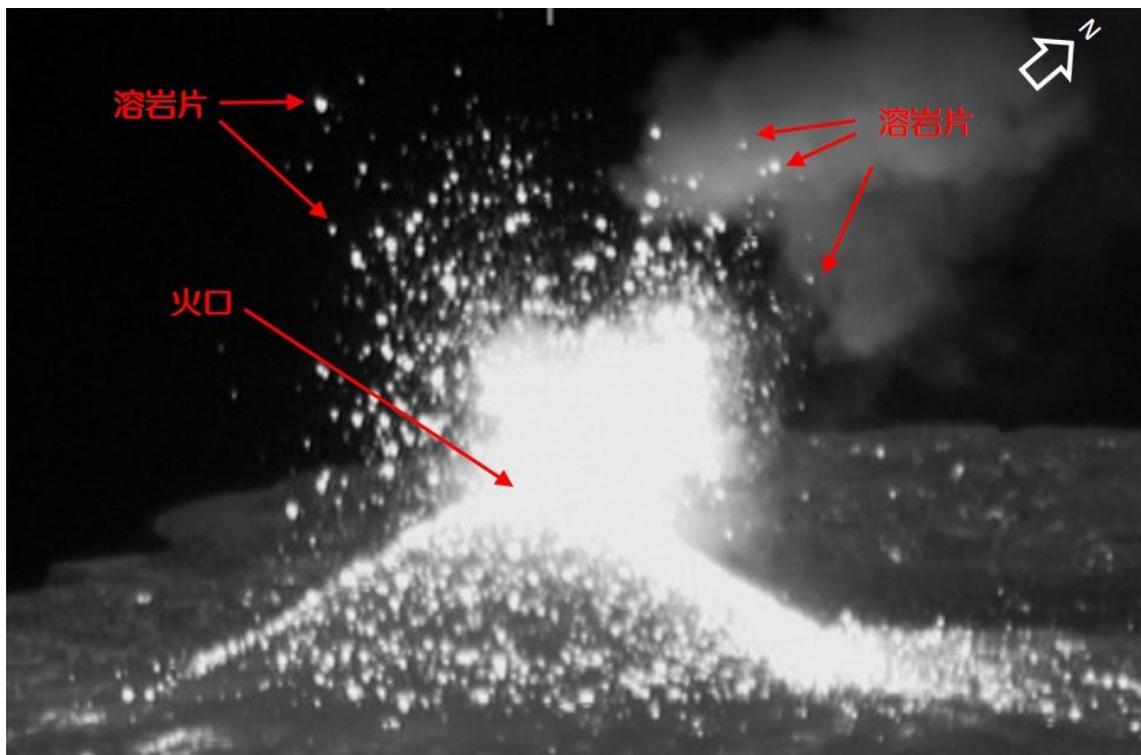


図4 火砕丘の火口から溶岩片を噴出（2月23日撮影）  
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

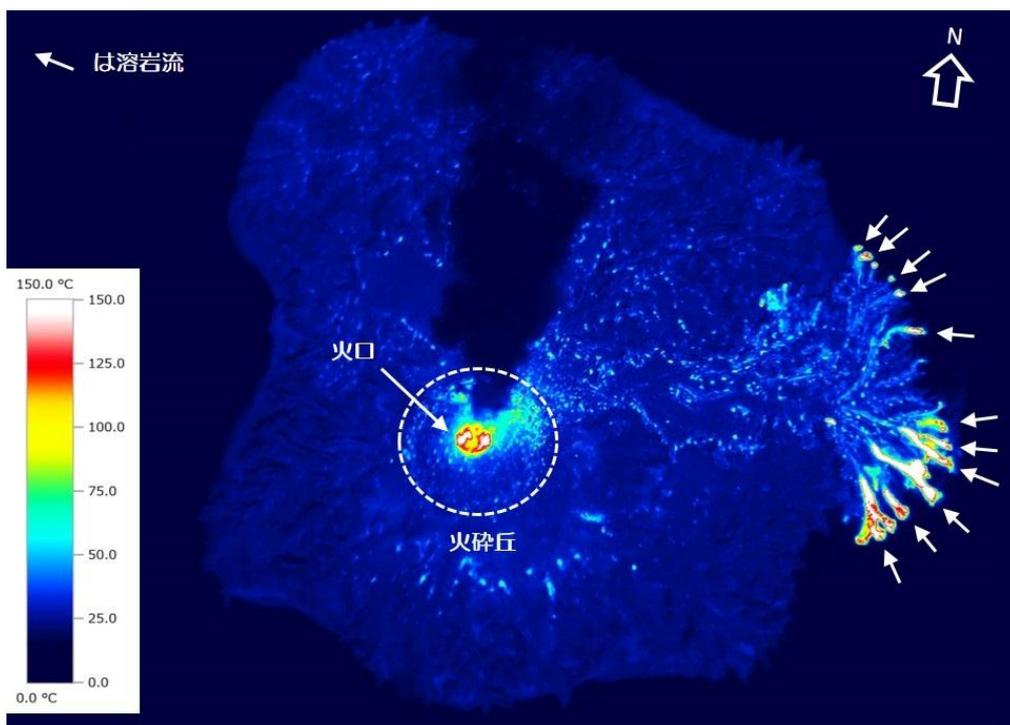


図5 熱画像の解析結果 (2月23日撮影)  
溶岩流が火砕丘から東方向に扇状に流れているのが確認できる。



図6 旧西之島 (2月23日撮影)  
旧西之島はまだ一部が溶岩に埋没せず残っている。

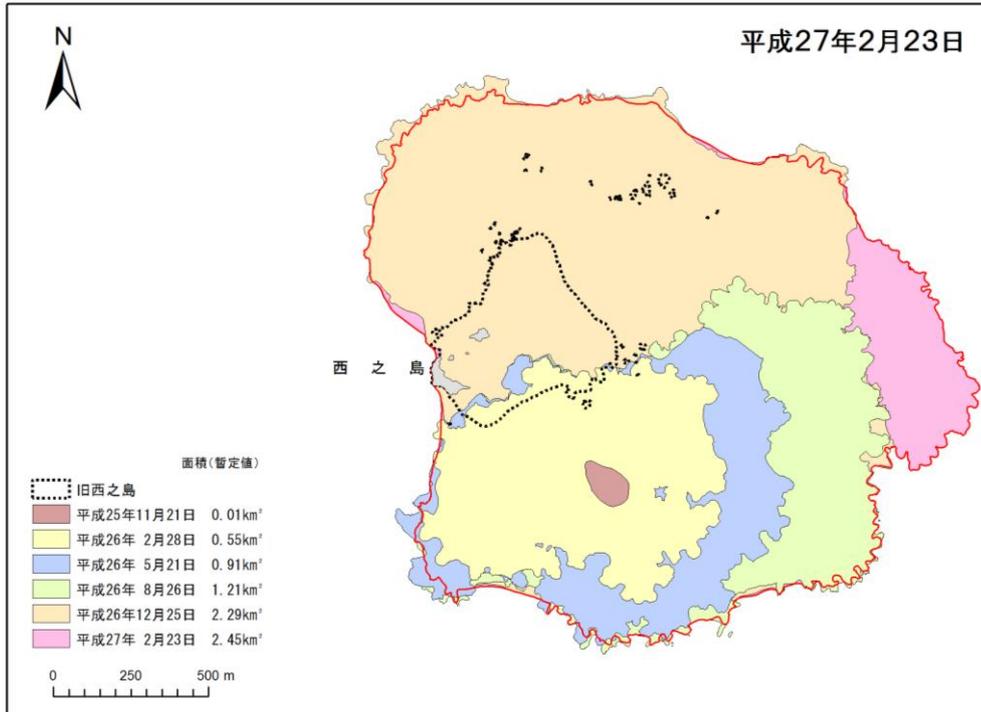


図7 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子  
赤線は2月23日現在の陸地の外縁